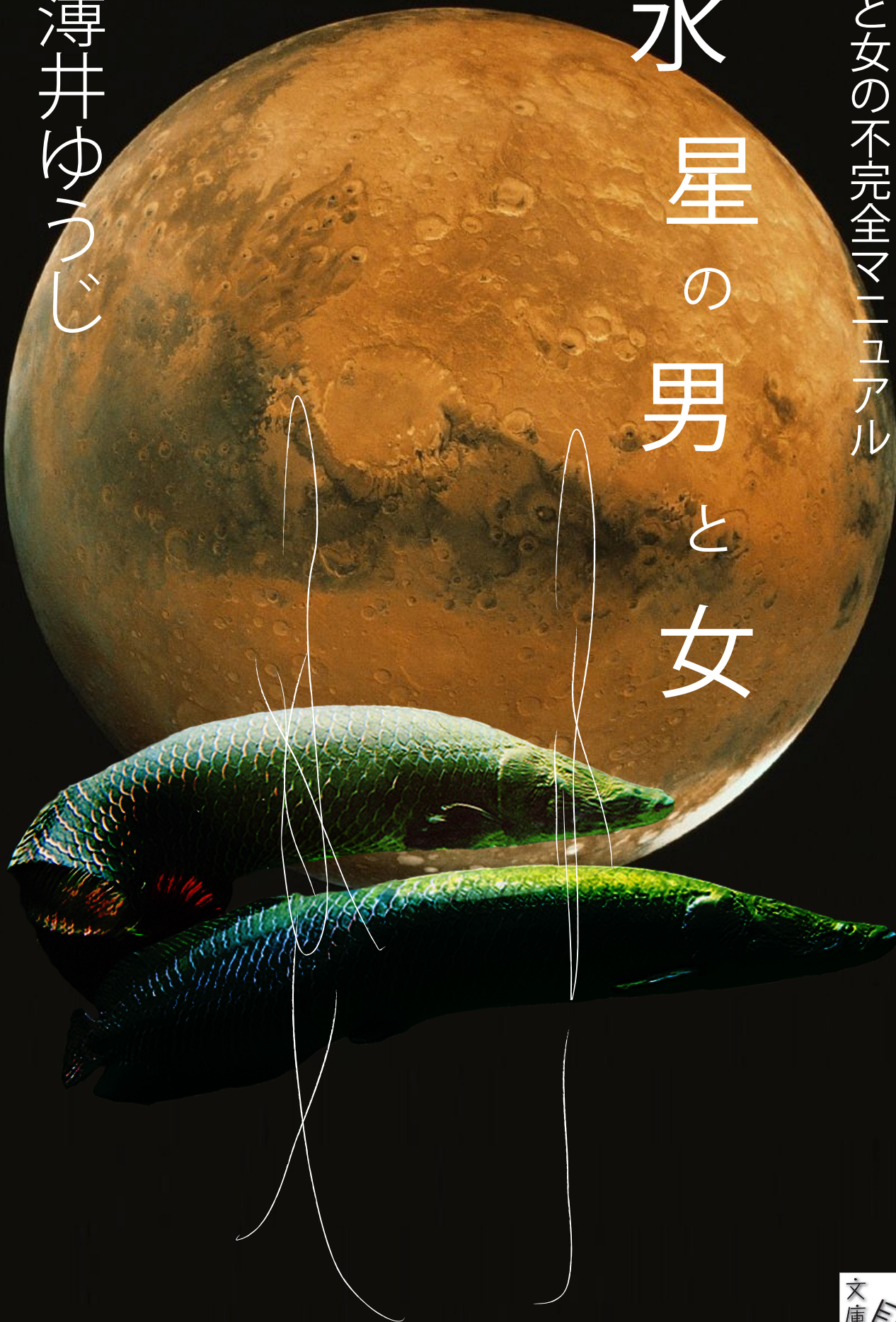


男と女の不完全マニュアル

水星の男と女

薄井ゆづじ



文庫
見
千ヨット

株式会社 ウィアックス

水星の男と女

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
垣 根	荷 物	旅 行	栽 培	裁 判	椅 子	水 槽	劇 場	生 卵	蜜 蜂

蜜蜂

僕はその日、森の小道を歩いていた。木漏れ日が僕の肩先や落ち葉や小さな茸をきらきらと光らせて、気持ちのいい午後だった。遠くどこかで小鳥が鳴いている。あるいは昆虫か、川に棲む爬虫類の鳴き声かもしれない。ちちちち、と絶え間なく聞こえている。ほかに物音はしない。

「ねえ」といきなり声をかけられて振り返った。「どこへ行くの」

森の妖精かと思うほど美しい女が、樹木の陰から僕のほうを見ている。ほっそりとした眼は、微笑みかけているせいかもしれない。彼女がまどつている透き通る衣服は、その素肌のほとんどをあらわにしていた。木漏れ日が逆光のために、光のなせるいたずらなのかもしれないが、僕は彼女が意図的に素肌を見せたがっているのだと解釈した。もちろん、見知らぬ女だった。

「ただ散歩しているだけだよ」

と僕は言った。何か目的があつてこの森に入ったはずだが、妖艶な彼女に見とれて、その用事はすっかり忘れてしまった。

「あなたは蜜蜂を探しているはず」

「そうだったかな」

「この道を通る男は、みんな蜜蜂を探しているの」

「何のために」

「ふふふ」彼女はひっそりと笑った。「そして男の人たちは、みんな忘れてしまう。何をしようとしていたのか、何のためだったのかを。私が思いださせてあげましょうか」

「どうやって」

「私と暮らすの。いつかは思いだすはず」

そんなふうにして僕は彼女と森で暮らすことになった。森のなかには食べ物豊富で、木の実や茸が採れた。小動物もたくさんいたし、谷川には魚の泳ぐ清流がいつも流れていた。森は寒くもなく暑くもなく、いつも快適な風が、かさかさと木の葉を揺らしながら木々を渡っていた。僕は森と、彼女の魅力とに溺れていた。

「ねえ」ある日、彼女は言った。「三年前の今日、あなたとここで出会ったのよね」

「そうだったかな。早いものだな」

「あなたは、思いだしたの？」

「何を」

「蜜蜂を探していたこと」

「蜜蜂。何の話だっけ」

僕がそう言うと彼女は、あきれた、というように深い溜め息をついた。彼女が身に付けている薄衣は、このところ日増しに透明度が低下して、もうほとんどその素肌を感じなくなっていた。やがては真っ黒の分厚い外套のようになってしまいうだろうことを僕は予感している。

「あなたは蜜蜂を見つけて、その脚に真綿をからませて放つの」

「なぜ」

「白い真綿を目印に蜂のあとを追いかけて、蜂の巣を見つけたすの。もうわかったでしょう」

順序よく物事を説明できる彼女を、僕は羨ましいと思った。この複雑な状況を、さらりと saying てることのできるのは、彼女が有能であるとか聡明であるとかの前に、彼女が女性だからだと僕は思う。

「わからないな」と僕は言った。「蜂の巣なんか見つけて、どうするんだ」

「ハチミツを採るのよ。甘くて栄養のたっぷり詰まったハチミツ。あなたは三年前、それを採るためにこの森へ入ってきたはず。思いだした？」

「全然」

実は忘れたわけでも、思いださないわけでもなかった。忘れたふりをする事によって僕は、彼女と暮らす日々を手に入れたのだ。もっと言えば、僕にとって彼女こそが甘いハチミツそのものだったのではあるまいか。しかしいまさら僕は、それを彼女に説明することが億劫になっていた。

「では行ってくるとするか」

僕は彼女が用意した真綿を手し、森のなかを歩きはじめた。蜜蜂など、どうしてもよかった。ハチミツにも興味を失っていた。そういうものを探しつづけている自分を演じ切るだけだ。

森は深く、もう木漏れ日も射さず、薄暗かった。こんなところに蜜蜂がいるはずはない。あれは光の燦々と射す、花畑の近くにいます。じめじめした落ち葉が敷き詰められた暗い森に、いるはずがない。それを知っている、僕は歩きつづける。

手のなかの真綿は僕の汗でじつとりと湿り気を帯びている。もうこれを蜂に巻き付けたとしても、蜂はその重みで飛ぶことさえできないだろう。

結局、こうなるのだ。そのことは三年前からわかっていたはずだ。様々な絶望感のなかで、僕は自分を罵

薄井ゆうじ（うすいゆうじ）

1949年茨城県生まれ。イラストレーター、デザイン会社経営を経て、『残像少年』で第51回小説現代新人賞を受賞。『樹の上の草魚』で第15回吉川英治文学新人賞を受賞。主な著書は、『天使猫のいる部屋』『くじらの降る森』『12の星の物語』など。



ちょっと思文庫

男と女の不完全マニュアル

水星の男と女

発売日 2012 年 3 月 20 日

著 者 薄井ゆうじ

編 集 栗田孝子

装 丁 2010

企 画 林 秀和 西門 直 大西健之 梶川悦子 志田 淳

発行者 小川巧次

発行所 株式会社 **ヴィアックス**

〒 164-8677

東京都中野区弥生町 2-8-15

TEL 03-3299-6009

<http://www.viax.co.jp/>

無断転載・複製を禁じます。

© Yuji Usui 2012

この作品は 2000 年 11 月から 2009 年 4 月、月刊『アップルタウン』誌に連載したものに加筆修正したものです。